

A Crane's Cry

校外学習や修学旅行が終わり、そして昨日2Hの海外研修も無事終了しました(2Hは本日と明日が代休になります)。週明けの27日(月)は1・2年生の模試があり、そして10月のラストとなる31日(金)には1・2年生の合唱コンクールが行われます。

この合唱コンクールについて、いくつかエピソードを紹介しておきます(但し、過去の学校要覧や記念誌を読んでも明確になっていない部分があります)。

- 昭和34年(1959)開校当初は、11月に文化祭が行われており、ここで合唱祭が行われていた模様。先に予選を行い、当日は6クラスくらいが発表していた。
- 昭和48年(1973)、文化祭が9月になり、夾竹桃祭という名称になった。
- 昭和50年(1975)、12月に「第1回音楽合同発表会」という行事が記録されている。おそらくこの年に、文化祭と合唱祭を分離したのだと推測される。「合同」とあるので、合唱以外の演奏なども行っていたのではないかと推測される。
- 昭和58年(1983)、9月に「合唱コンクール」という名称が記録されている。

まずそもそも、嘗ては本校に限らず、どこの学校でも「文化祭」と言えば、それはまさに「文化」的な催しであり、芸術的なイベントや展示会、或いは、何か研究した成果を発表したり、という行事でした。それがいつしか、「楽しむ」ことを目的としたようなイベントに変わっていったということです。

ただ本校では、文化的な行事も残していこうということで、合唱コンクールが継続されてきたのでしょう。開校当初からと考えれば今年が67回目となりますし、文化祭と分離したと思われるときから数えても51回目となります。「合唱コンクール」という名称になったときから数えても33回目です。

しかし、この長い伝統を誇る合唱コンクールが、一度ピンチに陥ったことがあります。それは、私が担任をしていた頃の話なので、今でもよく憶えています。

私が市千葉に赴任して最初に担任をしたのは平成12年(2000年)でした。その年の2年生は、合唱コンクールに対する取組が良くなく、先生方は虚しさを覚えていました。そして「教員が無理に指導しなければ成り立たないようなら、やめちゃおう。」というような雰囲気になり、翌平成13年(2001)のコンクールで最後…と職員会議で決まりました。ところが…当時の2年生、つまり僕が担任していた学年の生徒たちが、なぜか、教員が主導したわけではないのですが、主体的に盛り上がり、本番でも切磋琢磨して頑張ったので…それに感動した当時の校長先生が、「うん、やっぱり来年もやろう!」と鶴の一声を上げ…それで今日に至っているというわけなのです。つまり、もし私が担任をしていた代の生徒たちの取組がよくなかったら、合唱コンクールは終わっていた、ということなのです…。

こういう経緯を知っているので、今日までしっかりと伝統を守っていることをとても嬉しく思います。

持続可能な学校運営のためには、時として行事を精選することも必要です。しかし、合唱やスポーツなど、一人ではできない…他者と協力しなければ成しえない…そういうことに取組む機会を与えることは、学校が果たすべき役割の一つなのだと考えています。